

佳作

障害のある人とない人との心のふれあい体験を広げよう

戸田市内高校 1年

匿名

私は、ある福祉団体でサポートボランティアとして、自閉症スペクトラムの男性との交流を経験しました。当初はコミュニケーションが難しかったものの、努力して双方が納得するコミュニケーション方法を見出すことができました。

彼は日常生活においても支援が必要なが多く、私は彼の生活全般に携わることになりました。そこで彼と共に過ごす中で、自分自身が障害者の方々への理解が深まり、心に大きな変化が生まれました。彼との交流を通じて、彼が日常生活で困難を抱える原因が理解できるようになりました。例えば、うっかり手信号を間違えて渡したり、エレベーターを使わなければ移動に時間がかかり過ぎたりして、待ち時間が長くなってストレスを感じていることが分かりました。彼に寄り添いながら、彼の支援策を考え、日々の生活を改善することができました。また、彼にできた大事なことは彼に対する思いやりと認めることでした。様々な人々が彼の障害を知った上で、彼を認めることができることが日常的に望ましくあります。彼が「彼らは私のことが好きになってくれた」と言えたとき、私は大変幸せな気持ちになりました。

この経験を通して、私は障害を持つ人々がどれだけ健全であるかを理解できるようになりました。私自身も、誰もがそれぞれ個性を持ち、優しい思いやりを持っていることを学ぶことができました。私が出会った彼はそれぞれ異なるスタイルやタイプになっていたため、他の障害を持つ人々とも対話ができるようになりました。こうした出会いを通して、私は、障害や特別なニーズを持つ人々との交流の重要性を理解することが出来ました。私は障害者の人々が彼らの環境で健康的に生きやすいように、支援を提供することができます。そして、彼らは自分自身と他人への寛容さ、柔軟性、思いやり、観察眼を持ち続けることができます。さらに、共感や思いやりの大切さを実感しました。彼らは日常生活において様々な困難に直面していますが、それでも前向きに取り組んでいます。彼らの努力や頑張りに触れることで、私も彼らに対して共感や思いやりを持つことができ、私は人間の尊さや多様性の大切さを再認識しました。障害のある人々とのふれあいは私にとって貴重な経験であり、心の豊かさを感じることができる時間です。

最後に、自閉症の人々とのふれあいを通じて、彼らとの交流を通じて、私は自分の限界や偏見を越えることができました。自閉症の人々とのふれあいを終えて、私は感謝の気持ちでいっぱいです。彼らとのふれあいを通して、私は、これからも彼らとのふれあいを大切に、彼らの力になることができるように努力していきたいと思いました。これからも障害者支援施設やほかの場所でのボランティア活動を続け、もっとたくさんの方のことを学びたいです。